

岡山県感染症週報 2015年 第49週 (11月30日～12月6日)

岡山県の『腸管出血性大腸菌感染症注意報』は解除になりました。(12月8日)

◆2015年 第49週(11/30～12/6)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第47週 2類感染症 結核 1名(20代 男)
5類感染症 ジアルジア症 1名(30代 男)
- 第48週 2類感染症 結核 5名(40代 女 1名、80代 男 1名・女 3名)
4類感染症 A型肝炎 1名(50代 女)
5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(80代 男)
梅毒 1名(20代 女)
- 第49週 2類感染症 結核 3名(70代 男 2名、80代 男 1名)

■定点把握感染症の発生状況

(インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5 医療機関報告)

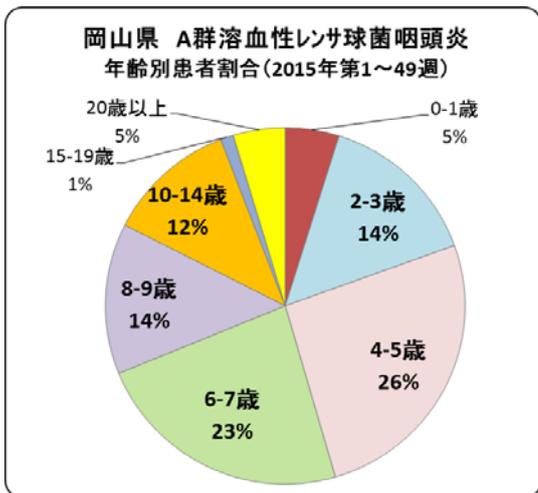
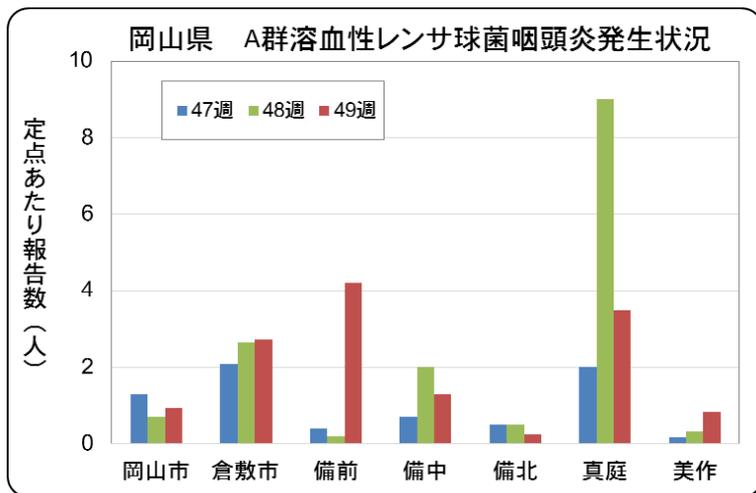
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で107名(定点あたり1.43→1.98人)の報告があり、前週より増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で485名(定点あたり6.44→8.98人)の報告があり、前週より増加しました。備北地域では、「発生レベル3」となりました。
- 流行性耳下腺炎は、県全体で52名(定点あたり0.74→0.96人)の報告があり、前週より増加しました。
- インフルエンザは、県全体で28名(定点あたり0.24→0.33人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

1. [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で107名(定点あたり1.43→1.98人)の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で485名(定点あたり6.44→8.98人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、備北地域(21.50人)、倉敷市(10.64人)、岡山市(8.93人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。また、備北地域(6.75→21.50人)で定点あたり報告数が前週より大きく増加し、「発生レベル3」になりました。冬の感染性胃腸炎の原因はウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。
3. [流行性耳下腺炎\(おたふくかぜ\)](#)は、県全体で52名(定点あたり0.74→0.96人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、真庭地域(3.00人)、美作地域(2.00人)、備北地域(1.75人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。また、前週にひきつづき真庭地域は、「発生レベル3」となっています。この感染症は、ムンプスウイルスによるもので、予後は一般に良好です。しかし、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。有効な薬剤はなく、治療は対症療法が中心となります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。
4. [インフルエンザ](#)は、県全体で28名(定点あたり0.24→0.33人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
5. 岡山県の『腸管出血性大腸菌感染症注意報』は解除になりました。(12月8日)
岡山県は、2015年8月6日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、県下全域に注意喚起を図ってきましたが、10月2名、11月3名と患者等の発生数が2か月連続して5名以下となっており、今後は例年発生の少ない時期を迎えることから、「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を12月8日に解除しました。
注意報は解除になりましたが、食肉の生食は避ける、肉の中心部まで火を通すなど、通常の食中毒予防を励行し、感染予防に努めましょう。

[「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を解除します\(健康推進課 報道発表資料\)](#)

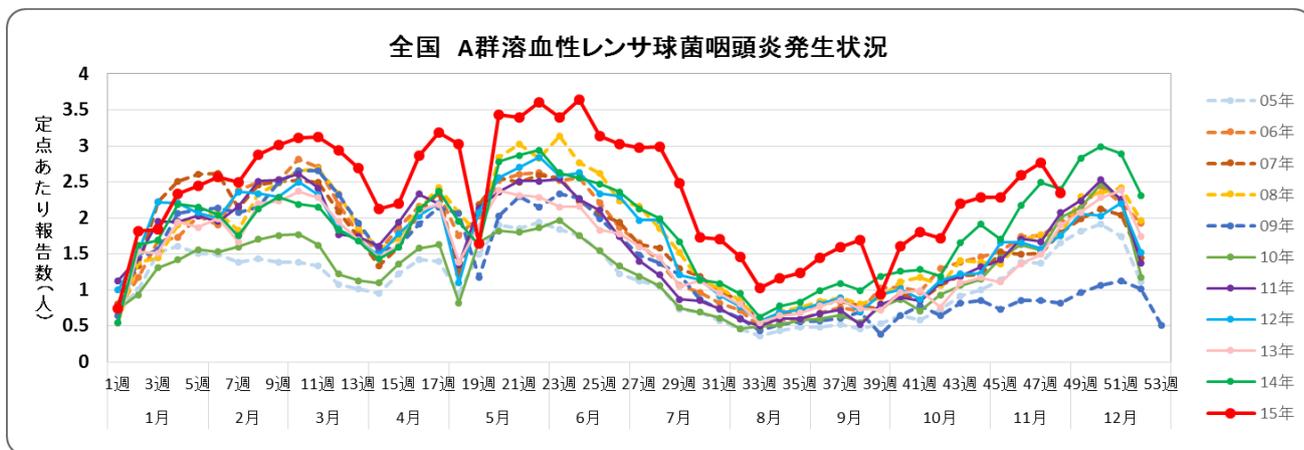
地域別では、備前地域（4.20人）、真庭地域（3.50人）、倉敷市（2.73人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に備前地域（0.20 → 4.20人）では、定点あたり報告数が前週より大きく増加しました。

2015年第1週からの年齢別累計割合は、4-5歳26%、6-7歳23%、2-3歳・8-9歳各14%の順に高くなっており、10歳未満の小児が全体の82%を占めています。



【全国の発生状況】

第48週全国集計によると、定点あたり報告数は2.35人であり、前週（2.76人）より減少しました。都道府県別では、山形県（4.83人）、岩手県（4.70人）、鳥取県（4.42人）の順で、定点あたり報告数が多くなっています。近隣県である鳥取県をはじめ山口県（3.21人）、島根県（2.57人）、広島県（2.36人）でも、多くの患者が報告されていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。



[IDWR 速報データ 2015年第48週 \(国立感染症研究所\)](#)

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群レンサ球菌による上気道感染症です。感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や、学校・保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。

就学前から学童期の小児に多い感染症で、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌（イチゴのように赤くブツブツしている舌）がみられることがあります。通常、発熱は3~5日以内に下がり、主症状は1週間以内に消失する予後良好な疾患ですが、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。また、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい・手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

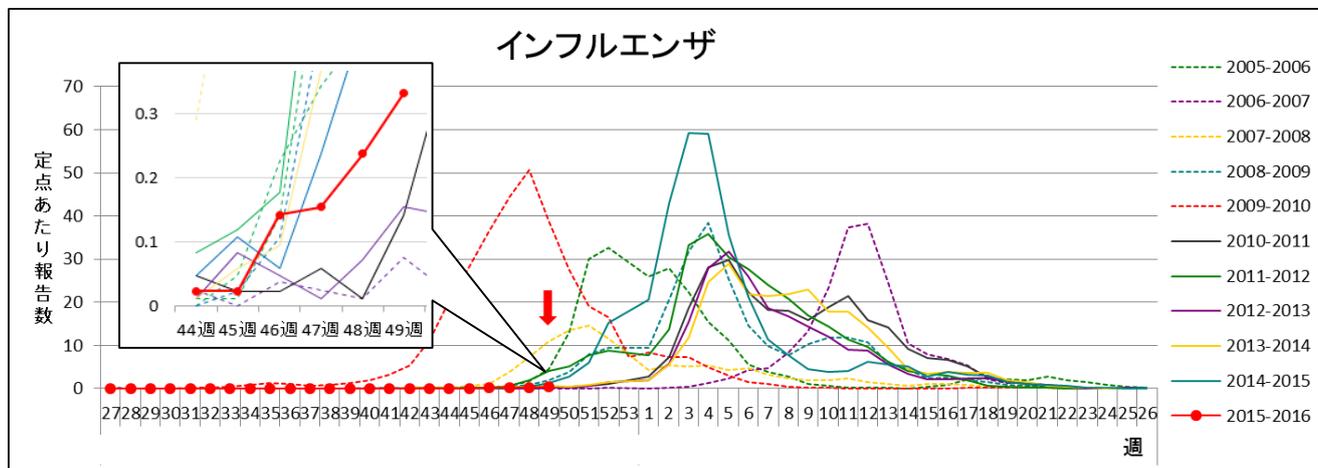
[A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは \(国立感染症研究所\)](#)

[IDWR 2012年第20週 <注目すべき感染症> A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 \(国立感染症研究所\)](#)

インフルエンザ週報 2015年 第49週 (11月30日～12月6日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で28名の報告がありました(84定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は1施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



インフルエンザは、倉敷市・備中地域 各9名、岡山市 6名、備前地域 3名、備北地域 1名の報告があり、県全体では28名(定点あたり0.24 → 0.33人)でした(84定点医療機関報告)。県内の発生は、まだ散発的ですが、定点あたり報告数は4週連続で増加しています。

12月に入り、例年インフルエンザの流行が始まる時期となりました。外出後は手洗いを励行し、感染予防を心がけましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

第48週全国集計によると、全国の定点あたり報告数は0.17人であり、前週とほぼ同数でした。都道府県別では、沖縄県(1.10人)、富山県(0.44人)、愛知県(0.38人)の順で、定点あたり報告数が多くなっています。

[平成27年第48週 インフルエンザの発生状況について\(厚生労働省\)](#)

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[平成27年度 今冬のインフルエンザ総合対策について\(厚生労働省\)](#)

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が出現するまで、2週間程度かかります。
本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。

定期予防接種対象者

- * 65歳以上の方
- * 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

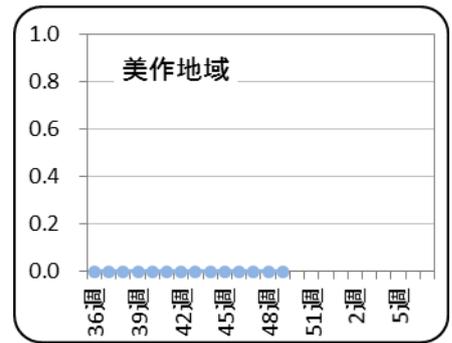
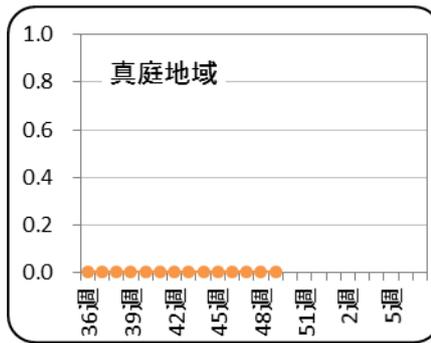
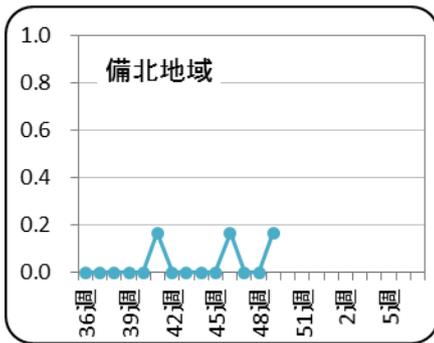
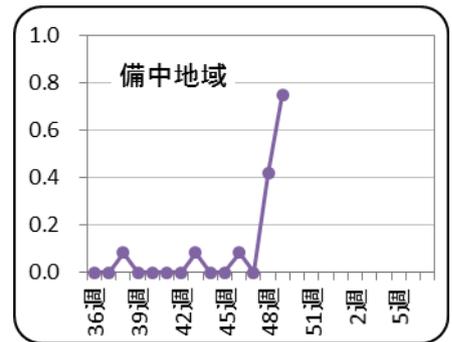
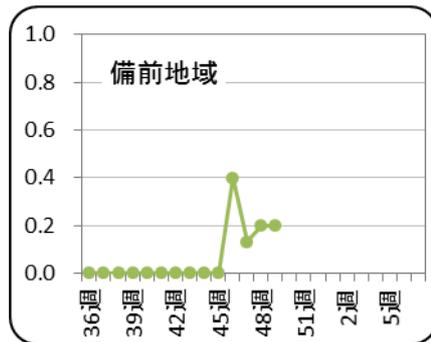
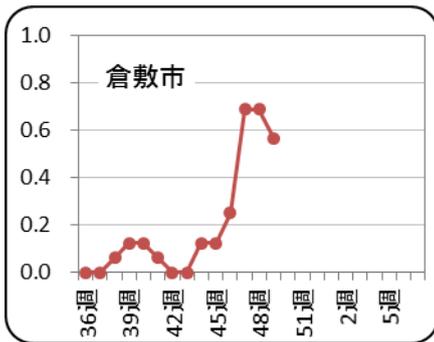
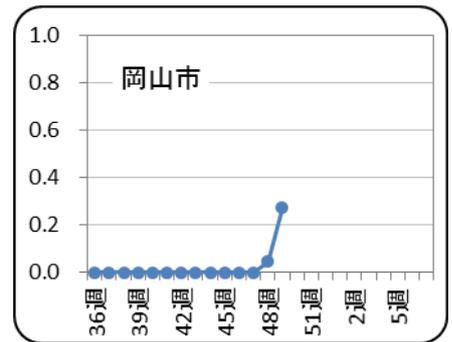
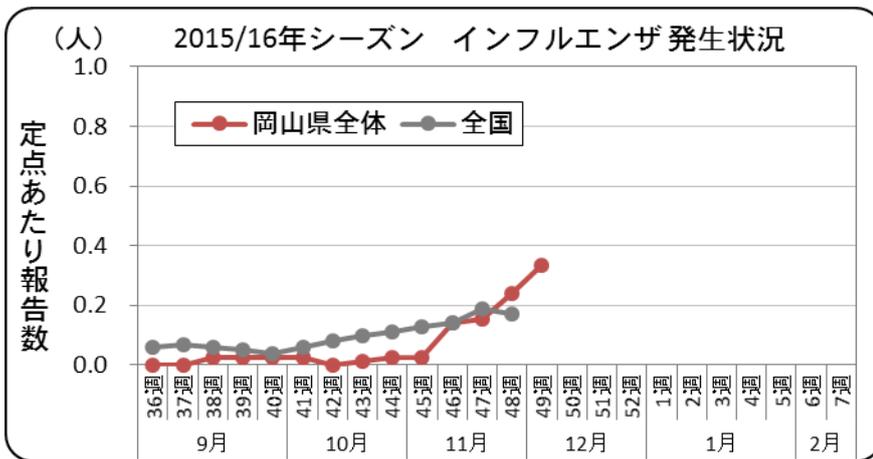
◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

1.地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

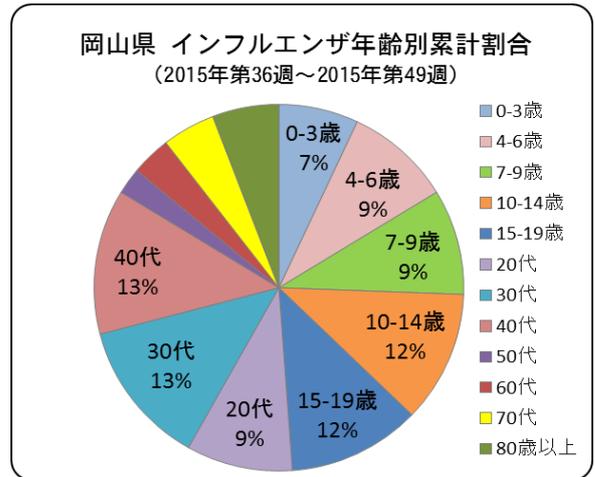
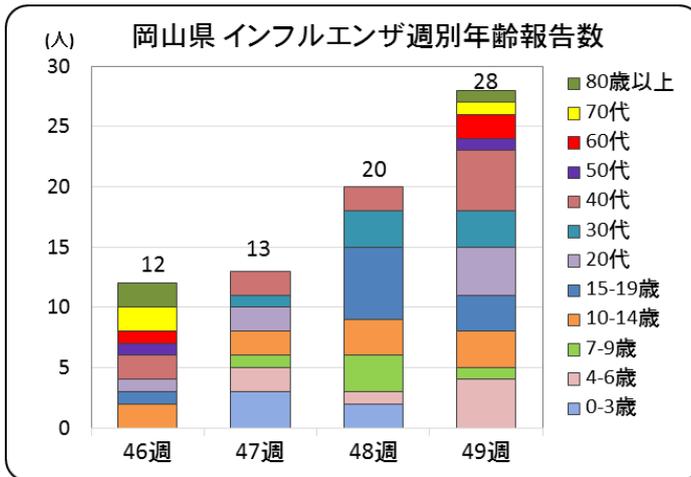
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	28	↗	備 中	患者数	9	↗
	定点あたり	0.33			定点あたり	0.75	
岡山市	患者数	6	↗	備 北	患者数	1	↗
	定点あたり	0.27			定点あたり	0.17	
倉敷市	患者数	9	↘	真 庭	患者数	—	↗
	定点あたり	0.56			定点あたり	—	
備 前	患者数	3	↗	美 作	患者数	—	↗
	定点あたり	0.20			定点あたり	—	

【記号の説明】 前週からの推移
 ↓ : 2倍以上の減少 ↘ : 1.1~2倍未満の減少 → : 1.1未満の増減
 ↗ : 1.1~2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加



2. 年齢別発生状況

今シーズン（2015年8月31日～）の年齢別累計割合は、30歳代・40歳代 各14%、10-14歳・15-19歳 各12%の順で高くなっており、患者の約半数は、20歳代以上の成人となっています。

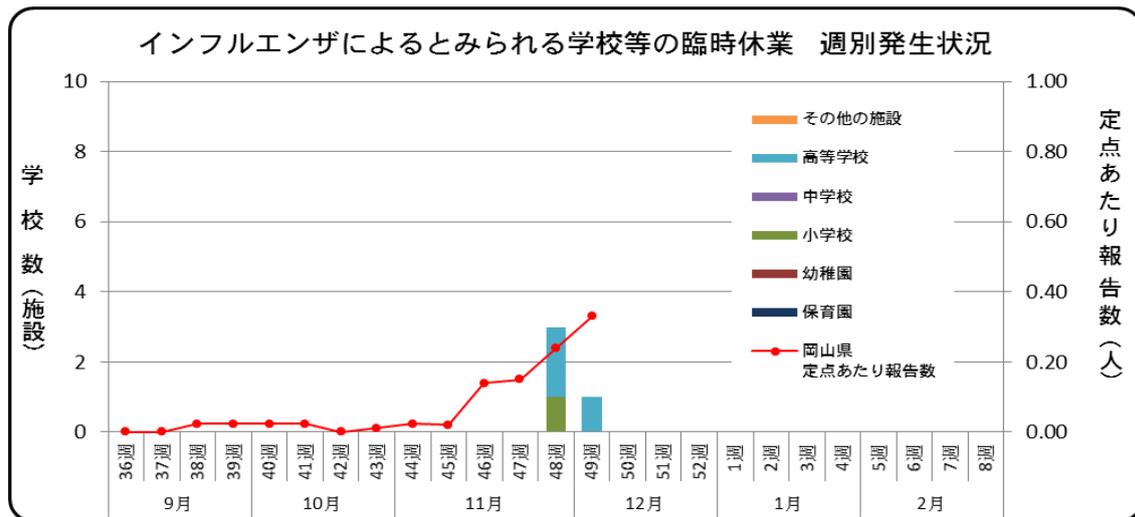


3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。

【第49週 臨時休業施設数】

▽浅口市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	6	42	6	32	1	4	-	-	-	-	1	4	H27.11.24
岡山市	0	9	0	6	0	1	-	-	-	-	0	1	H27.11.24
倉敷市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
備前地域	0	9	0	7	0	1	-	-	-	-	0	1	H27.11.24
備中地域	6	24	6	19	1	2	-	-	-	-	1	2	H27.11.24
備北地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
真庭地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美作地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第 49 週 : 1 施設

累計 : 4 施設

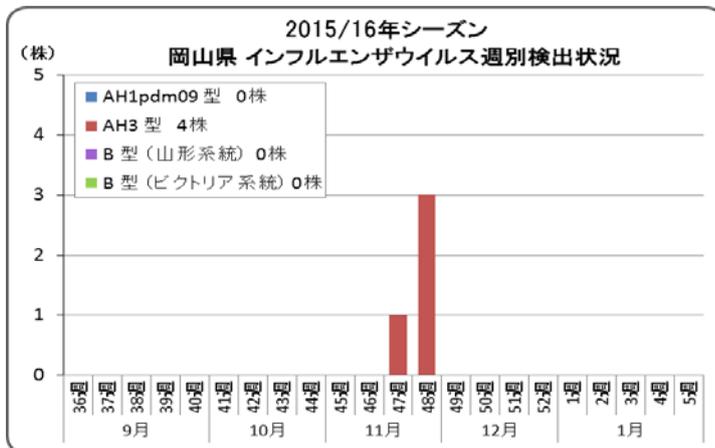
施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
	-	-	-	-	0	1	-	-	1	3	-	-

4. インフルエンザウイルス検出状況

第 49 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型 64 株、AH1pdm09 型 32 株、B 型 30 株となっています。(2015 年 12 月 4 日現在)

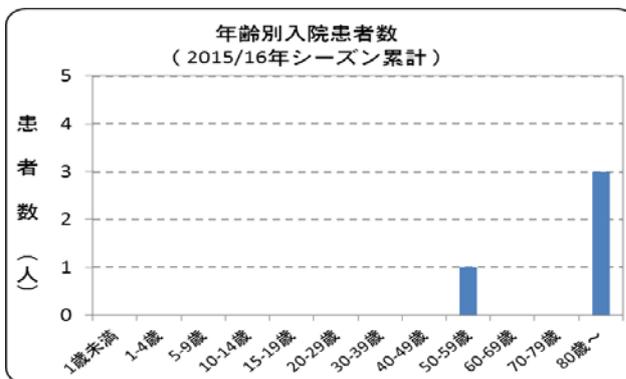
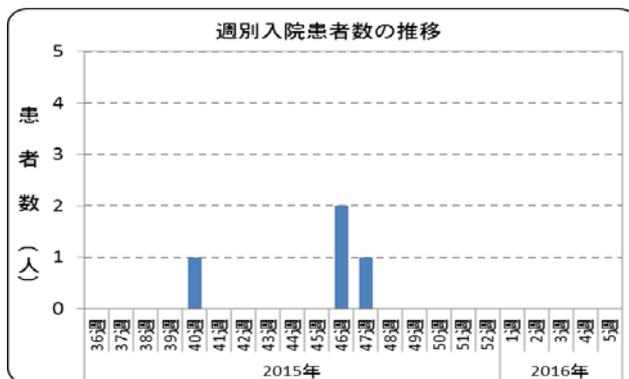
[インフルエンザウイルス分離・検出速報](#)
(国立感染症研究所)



5. インフルエンザによる入院患者報告数 (県内基幹定点 5 医療機関による報告)

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【2015 年 8 月 31 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数									1			3	4
ICU 入室									1				1
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)													
頭部 MRI 検査 (予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず												3	3

* 重複あり

保健所別報告患者数（定点把握）2015年 49週 （2015/11/30～2015/12/06）

2015年12月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	28	0.33	6	0.27	9	0.56	3	0.20	9	0.75	1	0.17	-	-	-	-
RSウイルス感染症	64	1.19	18	1.29	27	2.45	2	0.20	6	0.86	6	1.50	1	0.50	4	0.67
咽頭結膜熱	10	0.19	5	0.36	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	107	1.98	13	0.93	30	2.73	42	4.20	9	1.29	1	0.25	7	3.50	5	0.83
感染性胃腸炎	485	8.98	125	8.93	117	10.64	80	8.00	27	3.86	86	21.50	9	4.50	41	6.83
水痘	37	0.69	10	0.71	11	1.00	5	0.50	8	1.14	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	7	0.13	7	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	18	0.33	13	0.93	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	30	0.56	16	1.14	6	0.55	3	0.30	1	0.14	-	-	2	1.00	2	0.33
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	52	0.96	16	1.14	8	0.73	1	0.10	2	0.29	7	1.75	6	3.00	12	2.00
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	20	1.67	13	2.60	1	0.25	6	6.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 49週（2015/11/30～2015/12/06）

2015年12月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	28	0.33	6	0.27	9	0.56	3	0.20	9	0.75	1	0.17	-	-	-	-
咽頭結膜熱	10	0.19	5	0.36	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	107	1.98	13	0.93	30	2.73	42	4.20	9	1.29	1	0.25	7	3.50	5	0.83
感染性胃腸炎	485	8.98	125	8.93	117	10.64	80	8.00	27	3.86	86	21.50	9	4.50	41	6.83
水痘	37	0.69	10	0.71	11	1.00	5	0.50	8	1.14	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	7	0.13	7	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	18	0.33	13	0.93	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	52	0.96	16	1.14	8	0.73	1	0.10	2	0.29	7	1.75	6	3.00	12	2.00
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	20	1.67	13	2.60	1	0.25	6	6.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第49週 2015/11/30～2015/12/06)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	28	-	-	-	-	1	2	1	1	-	-	3	3	4	3	5	1	2	1	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	64	10	16	23	5	5	3	1	1	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	10	-	3	4	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	107	-	2	16	11	5	12	14	10	8	6	5	15	1	2
感染性胃腸炎	485	11	34	105	56	48	37	29	26	14	11	16	29	9	60
水痘	37	2	2	2	3	5	7	6	6	1	-	-	3	-	-
手足口病	7	-	3	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	18	-	-	1	-	1	2	4	1	4	3	1	1	-	-
突発性発疹	30	3	11	11	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	52	-	-	3	2	4	10	11	5	1	1	4	6	2	3

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	20	-	1	-	-	2	2	1	1	-	2	-	-	-	2	4	1	2	1	1

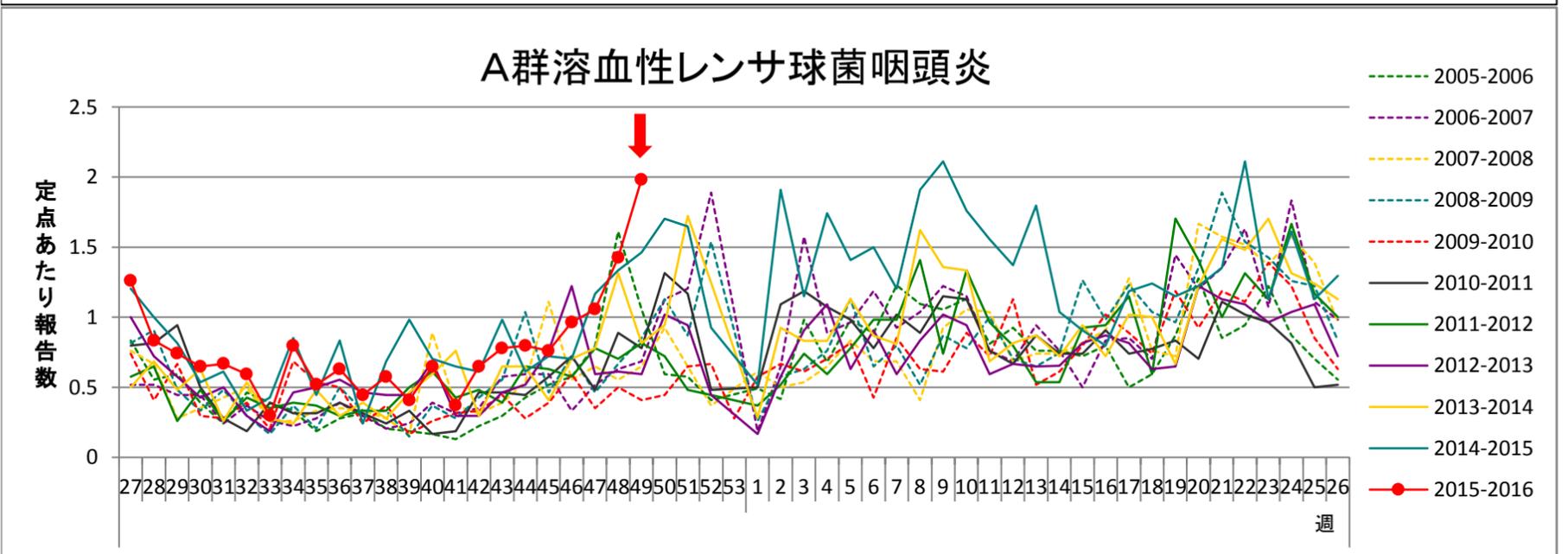
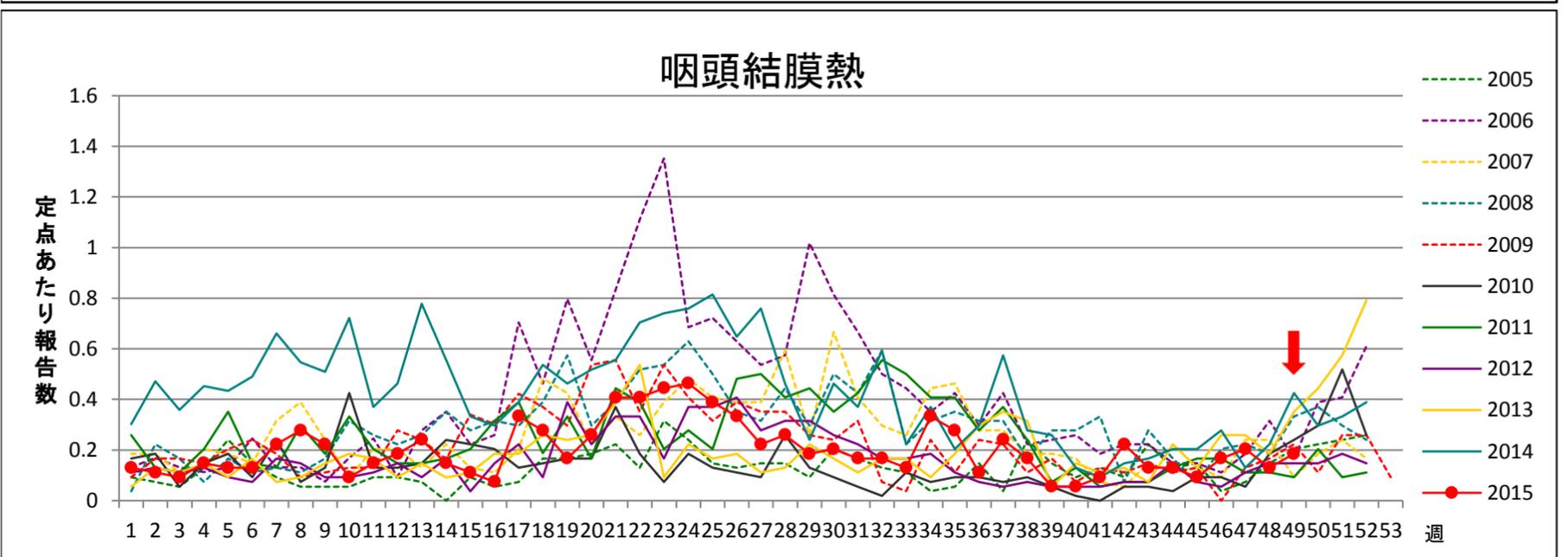
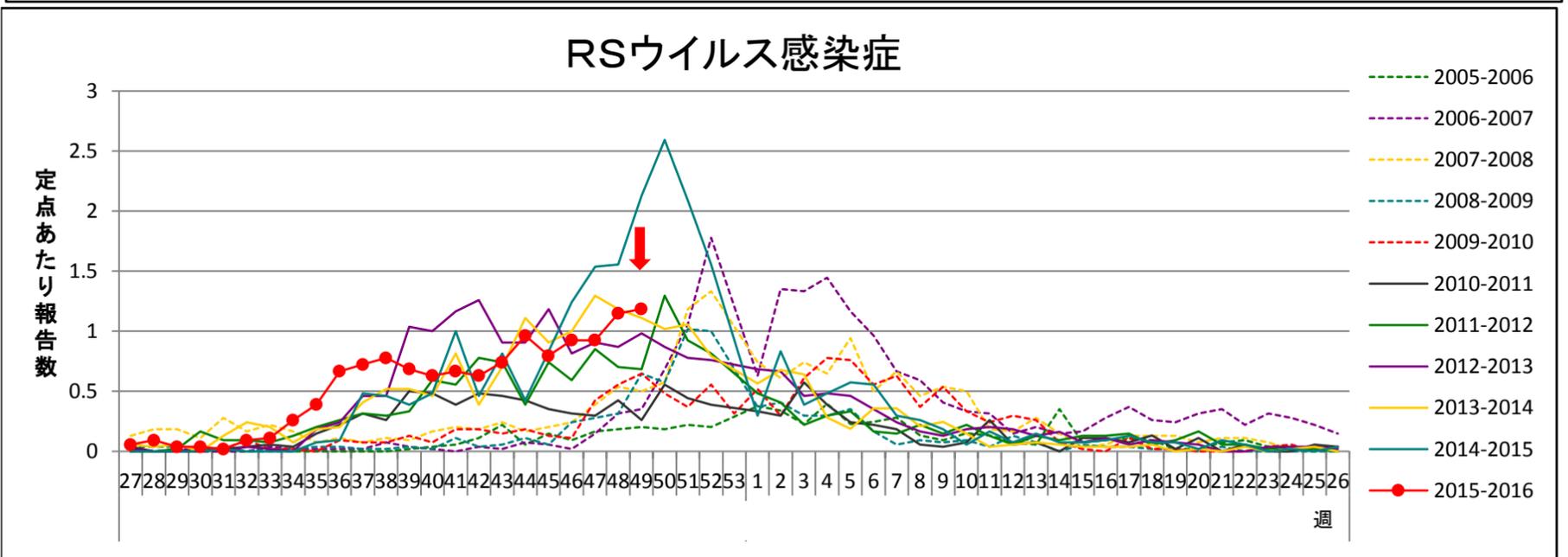
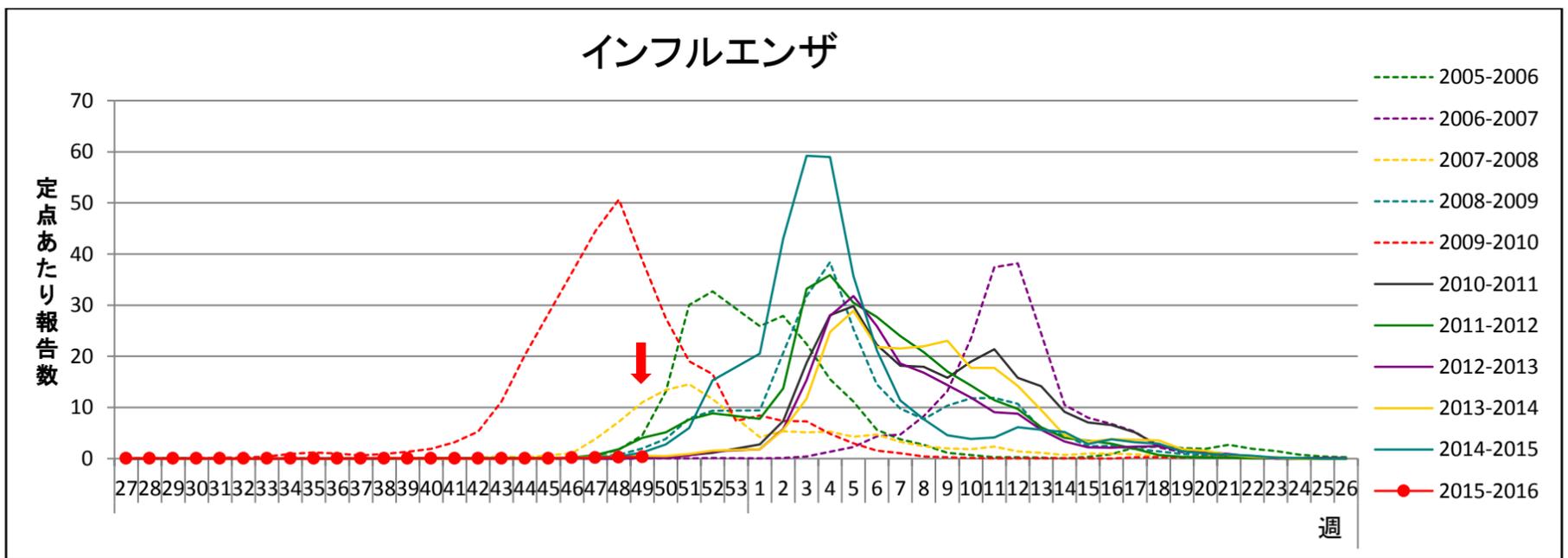
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

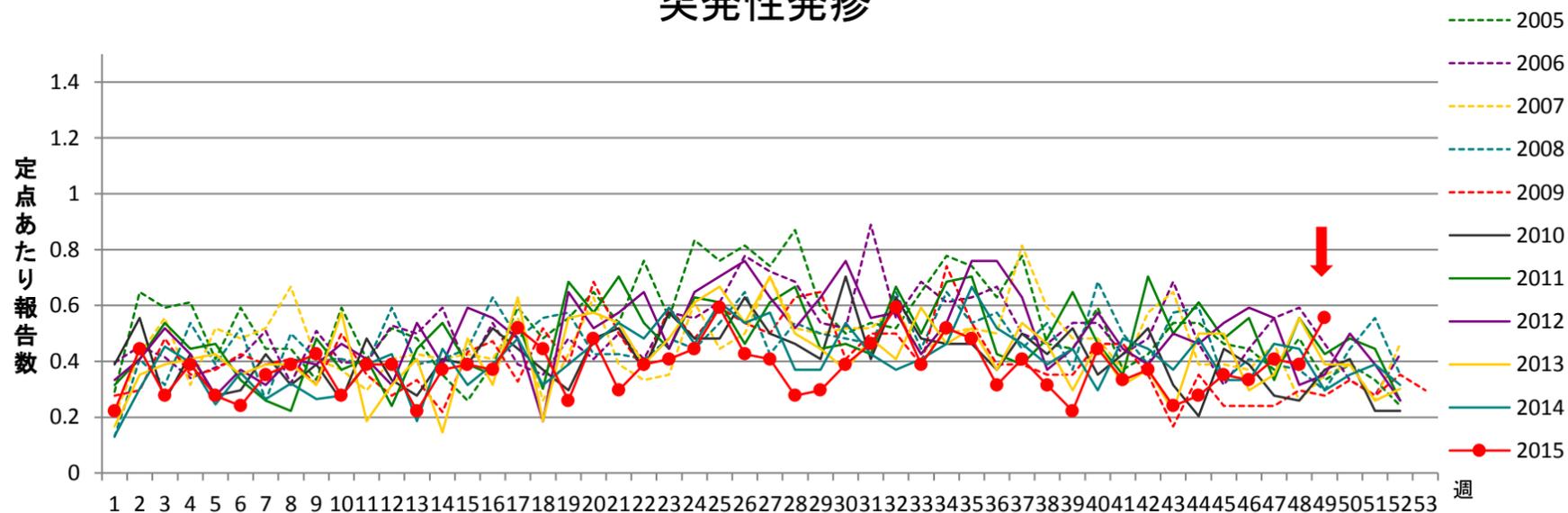
全数把握 感染症患者発生状況

2015年 49週

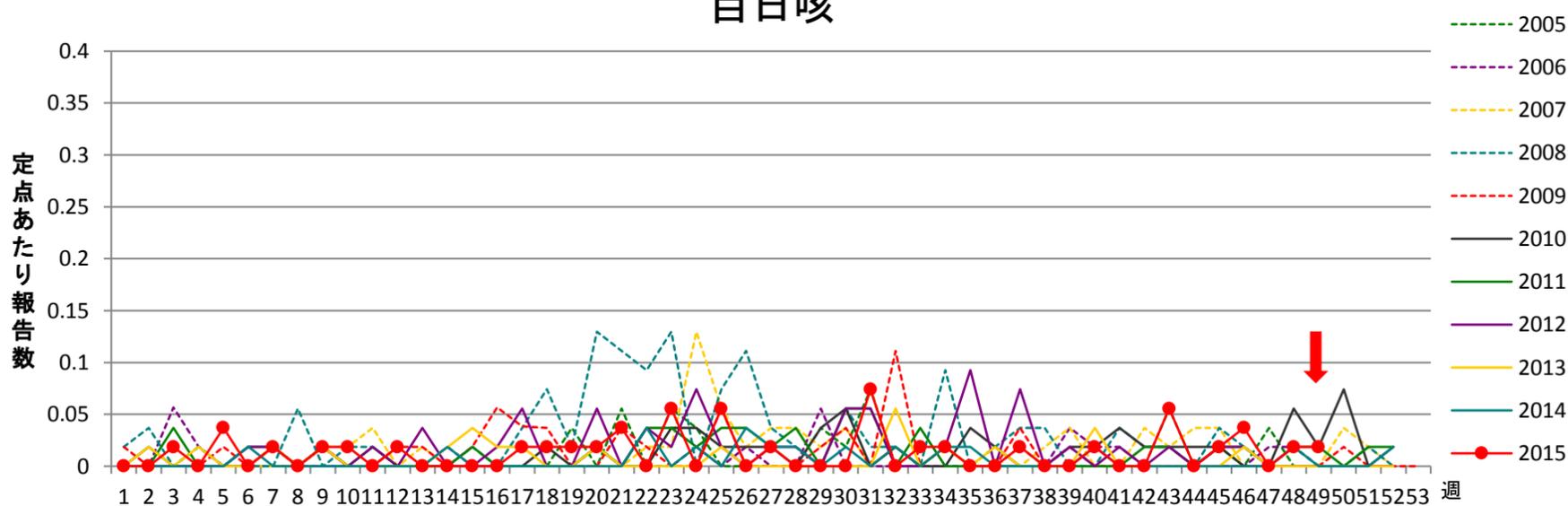
分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	350	384	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	2	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	63	71
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	3	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	7	8
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	2	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	2	-	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	25	32	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	17	12	ウイルス性肝炎*3	-	7	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	30	12
	急性脳炎*4	-	12	9	クリプトスポリジウム症	-	1	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	3	後天性免疫不全症候群	-	20	19	ジアルジア症	-	4	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	29	27
	水痘(入院例に限る。)	-	5	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	20	21
	播種性クリプトコックス症	-	1	1	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-



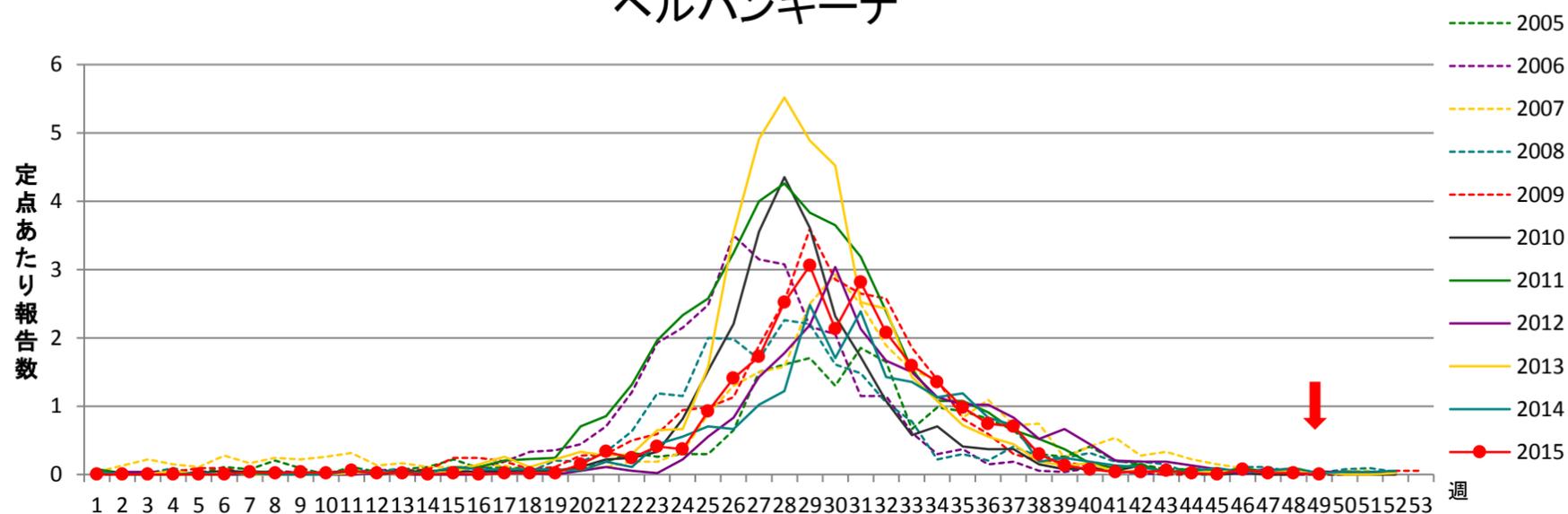
突発性発疹



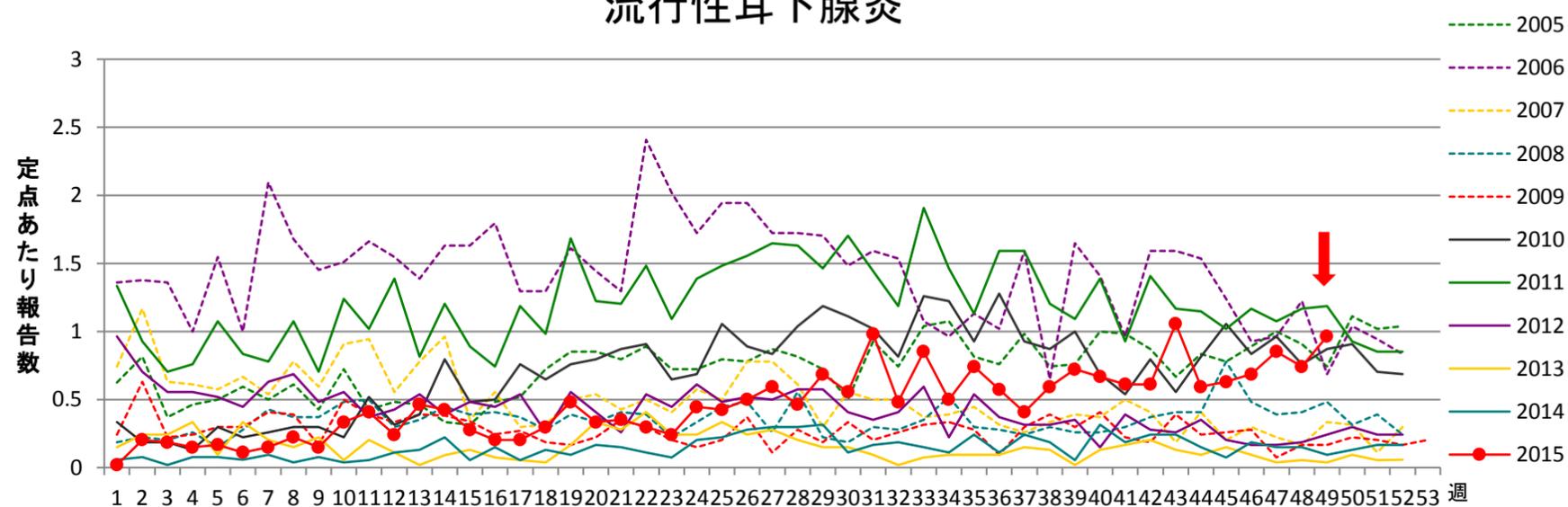
百日咳



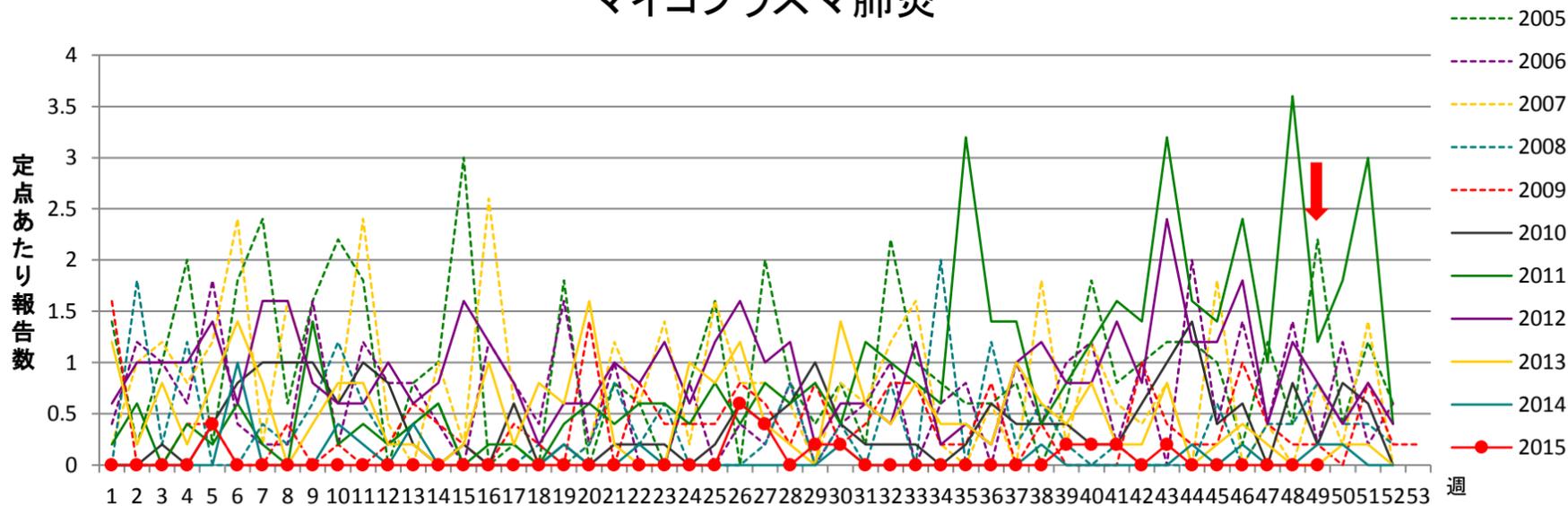
ヘルパンギーナ



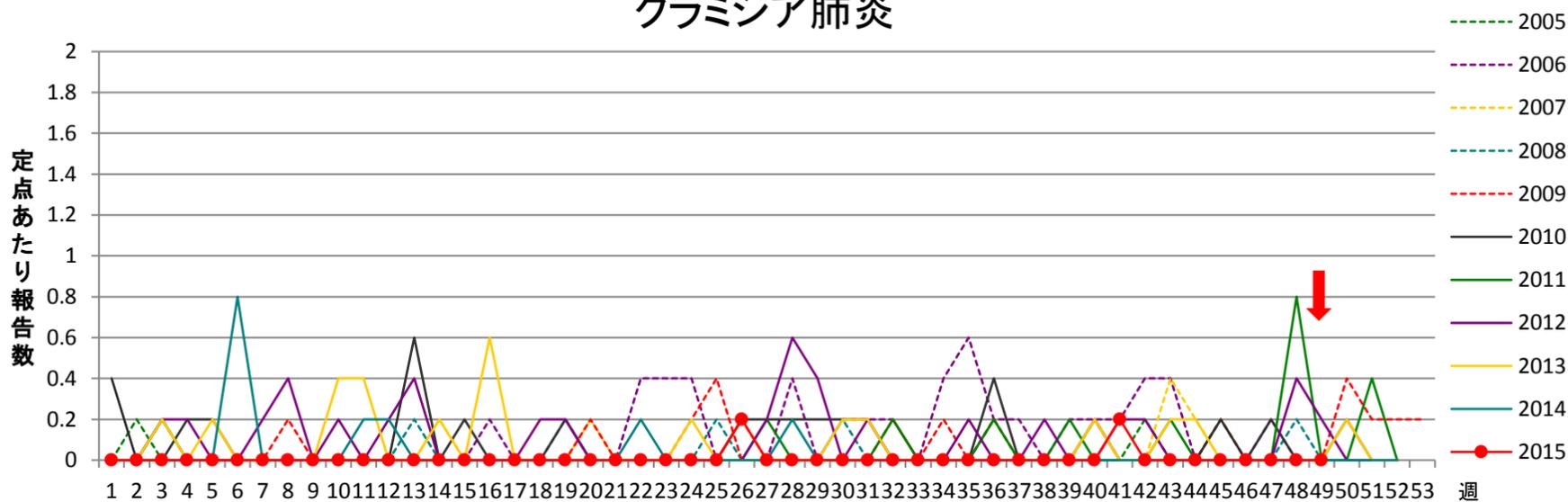
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

